

秋田県作業療法士会ニュース

きりたんぽ

Vol.42-No.4



□巻頭言

「精神保健福祉対策部の役割と

これまでの取り組み、そしてこれから」

…介護老人保健施設 やすらぎの苑 鈴木 新吾

□大学講座

「リカバリーはどこで育まれるのか」

…秋田大学 作業療法学講座 富澤 涼子

□職場紹介

…介護老人保健施設 ニコニコ苑 清水 郁美

□秋田県環境・保健事業功労者表彰

□トピックス

【元気があれば何でもできる！】

病院の「ファン」を創るということ

—作業療法士の視点が、病院の未来を拓くヒントになる—

…障がい者支援施設ほくと 若狭 利伸

□みんなで語るべ～日々の楽しみ方～

【語り手】介護老人保健施設 成寿苑

□地域支援事業～地域と作業療法と私～

【第2回】必死に走っていたら道ができていた件

中通リハビリテーション病院 原田 大河



精神保健福祉対策部の役割と、 これまでの取り組み、そしてこれから

介護老人保健施設 やすらぎの苑

秋田県作業療法士会 精神保健福祉対策部 鈴木 新吾

医療や福祉を取り巻く環境が変化するなかで、作業療法士に求められる役割も、より多様で柔軟なものへと広がっています。これは精神保健福祉領域においても同様であり、臨床現場では日々さまざまな工夫や試行錯誤が重ねられています。

現在、わたくしは精神保健福祉対策部（以下、精保部）を担当しています。精保部は、精保領域に関連する活動を担う部局として、県士会員への情報発信・共有と、会員同士の連携強化を目的に活動しています。精保領域の視点は精神科領域に限らず、他領域の実践とも深く関わるものであることから、領域を限定せず、幅広い会員にとって意味のある取り組みとなることを意識しています。

精保領域の作業療法は、施設や地域によって役割や実践の形が異なり、日々の臨床の中で工夫や課題を抱えながらも、それらを共有する機会は決して多くありません。こうした背景を踏まえ、精保部では「現場の実態を可視化し、つながりを通じて実践を支えること」を重視して活動を進めてきました。

令和6年度には、精保領域における作業療法の実態を把握する取り組みを行い、臨床や制度運用、地域との関わり方など、施設や立場によって実践の形がさまざまであることが改めて共有されました。共通する課題とともに、各現場の工夫や強みが見えてきたことは、今後の活動を考えるうえで大きな手がかりとなりました。

その結果を共有する場として意見交換会を開催し、実践上の悩みや工夫を率直に語り合う機会を設けました。「自施設だけではない」と感じられる声も多く、継続的な情報共有や交流の必要性が改めて示されました。

こうした声を受け、精保領域メーリングリストを活用した情報提供や意見収集など、日常的な情報共有の基盤づくりに取り組んできました。

令和7年度には、これまでの取り組みを踏まえ、外部講師を招いた研修会や意見交換会を実施しました。研修会では、事前に寄せられた意見を参考に内容を企画し、対面開催とすることで、より実践に即した学びの場を目指しました。また、精保領域メーリングリストを活用した情報発信を継続するとともに、会員の関心や疑問を把握するための「ミニアンケート」を毎月実施し、日常的なつながりを意識した取り組みを進めています。

精保領域に関わる実践は、どの領域においても無関係ではありません。それぞれの現場での経験や視点が共有されることで、新たな気づきや実践のヒントが生まれていくと考えています。精保部は、現場で感じる疑問や工夫を持ち寄り、領域や立場を越えて共有することで、作業療法の実践そのものを支えていく場です。今後も、無理のない関わり方を大切にしながら、会員同士がつながり続けられる部局でありたいと考えています。

なお、精保部では精保領域メーリングリストへの登録を随時受け付けています。精保領域に関心のある県士会員であれば、どなたでも登録可能です。情報発信や意見交換、アンケートの案内などを行っていますので、興味のある方は、案内をご参照ください。

【精保領域メーリングリストのご案内】

- ・QRコードからアクセスし、Web上からご登録手続きをお願いします。
- ・県士会HPから登録の場合は、URLよりアクセスして下さい。

<https://akita-ot.jpn.org/membersite/pg609.html>



「リカバリーはどこで育まれるのか」

秋田大学 作業療法学講座 富澤 涼子

月に一度、統合失調症当事者のためのリカバリーに関するオンライン勉強会を開催している。あわせて、リカバリーをテーマにしたオンラインコミュニティの運営にも関わっている。東京、千葉、神奈川、愛知、京都など、さまざまな地域から物理的距離を超えて参加できることは、オンラインならではの利点の一つである。活動のきっかけは、鹿児島県在住の統合失調症当事者と知り合ったことだ。社会資源が乏しく、リカバリーについて学べる場所がないという話を聞き、それなら一緒に作ってみようという流れで話は進んでいった。勉強会では、最新のリカバリー研究からリカバリーのヒントを学ぶことに加え、WRAPやアサーショントレーニングの実践など、参加者のニーズを取り入れながら約5年間継続してきた。

精神科病院に勤務していた頃、リカバリーという言葉には、どこか絵空事のような印象をもっていた。アンソニーによる古典的な定義「疾患を超えて、もとの態度・価値・感情・目標・スキル・役割が変化していく中で、人生の新しい意味や目的を発展させていくプロセス」は有名だが、入院OT、外来OT、デイケアで出会う方々の多くは、精神症状や生活のしづらさの渦中にあり、この定義はただの理想論のように感じられた。しかし、オンライン勉強会などを開始してから、多くのリカバリーストーリーに触れるなかで、リカバリーは実際に起こりうるプロセスであるという確信へと変わっていった。昨年12月の勉強会では、「今年は自分のリカバリーが大きく進んだと思える1年でした」と語る当事者がいた。アメリカのSAMHSAは、リカバリーを「個人の健康とウェルネスが向上した自律した生活のなかで、自らの潜在能力を最大限に発揮できるように努力する変化のプロセス」と定義している。希望に満ちた表情で今年の抱負を語る姿は、まさにこの定義を体現しているように感じられた。



では、病院では見られなかった光景を、なぜ地域やオンライン上では見ることができるのだろうか。当事者の中には、周囲に家族や支援者がいたとしても、なかなか本音を打ち明けられず、孤独を感じている人も少なくない。しかしその一方で、誰かとつながりたい、誰かに話を聞いてもらいたいという思いを抱えていることも多い。オンラインの場では、ニックネームで参加でき、その場限りの関係性を選ぶこともできる。そして何より、同じ当事者性をもつ仲間から存在そのものを肯定してもらえる。「いくら毒を吐いても受け止めてもらえ、吐ききること明日への活力を養える場所」と、ある参加者は表現していた。これまでの研究から、実際にリカバリーを経験した人たちに共通する要素として、「つながり」「希望と楽観主義」「自分らしさ」「人生における意味と目的」「エンパワメント」の5つが示されている。これらの要素を揃えやすいのが、地域やピアコミュニティであると考えている。地域は、症状や機能の回復にとどまらず、パーソナルリカバリーを育む場でもある。生活や意味の再構築に伴走してきた作業療法士にとって、地域は今後さらに役割を発揮できるフィールドであり、その可能性は大きいと感じている。



職場紹介



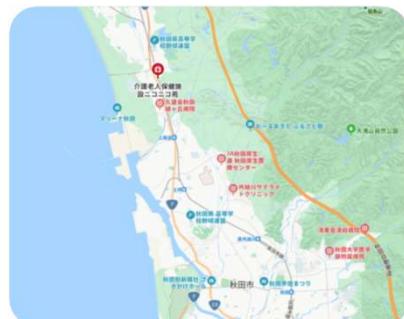
介護老人保健施設 ニコニコ苑 清水 郁美

ニコニコ苑は、秋田市北部に位置する、平成元年に開設した介護老人保健施設です。施設内は天井が高く外光を取り入れた明るく開放的な空間となっており、中心にある日本庭園では四季の移ろいを感じながら、穏やかな時間を過ごすことができます。リハビリスタッフは、作業療法士5名、理学療法士3名、言語聴覚士1名の計9名で構成され、個別リハビリと集団療法を行っています。利用者様一人ひとりのニーズに合わせた目標を設定し、施設生活を快適に過ごしていただくこと、また在宅復帰後も安心して生活できることを目指し、多職種やご家族と連携しながら心身機能や日常生活動作の向上を支援しています。

集団療法では、曜日ごとに目的を設定したプログラムを実施しています。カラオケや身体と頭を使った脳トレ、学習療法、塗り絵や手工芸に加え、将棋や花札などを取り入れ、集団活動への参加が消極的な方にも楽しんでいただける工夫を行っています。スタッフ主体ではなく、利用者同士の交流を大切に、施設生活の中に楽しみや生きがいを感じていただけるよう企画、提供しています。

また、施設外では月に1回程度、健康体操教室や認知症カフェに運動指導員として参加し、地域高齢者の介護予防や健康寿命の延伸、地域の活性化にも貢献しています。

春から秋にかけては、利用者様と一緒に花壇づくりやプランター菜園に取り組み、野菜の成長や収穫を通して、喜びや達成感を共有する温かな交流の時間を大切にしています。コロナ禍により、以前まで行っていた近隣の小学校や地域ボランティアとの交流は縮小しましたが、節分やひな祭り、納涼会、運動会、クリスマス会など、施設内での行事レクリエーションを多職種と協力して実施しています。さらに、ネパールやミャンマーなど海外からの介護人材の受け入れ・育成にも取り組み、行事では海外スタッフによる歌や伝統舞踊を披露するなど、多文化交流の機会も大切にしています。介護職員のマンパワー不足もありますが、リハビリスタッフも介護業務に協力し、職種の枠を越えた連携体制のもと、利用者様が安心して生活できる環境づくりに努めています。これからも利用者様一人ひとりの声に耳を傾け、地域や多職種と連携しながら、心を大切にされたサービスを提供していきたいと考えています。



秋田県秋田市下新城野字琵琶沼138-1

日本庭園



プランター菜園



馬の壁画作成



「秋田県環境・保健事業功労者表彰を受賞して」

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 高見 美貴

この度、秋田県作業療法士会のご推薦により、令和7年度秋田県環境・保健事業功労者表彰をいただきました。県士会の皆様へこの場をお借りして感謝申し上げます。

自分の経歴を振り返ると、功労者に該当するような功績や手柄は特段なく、心の片隅に恥ずかしい気持ちがありました。しかし、これまで長らく臨床業務を継続できたことは唯一胸を張ってもよいかなと思えました。作業療法士は、肉体労働と頭脳労働の両方を求められ、その仕事の特性が飽き性の自分に合っていたのだとも思います。そのおかげで、多くの患者さんや同僚、他職種の方々など多くの方と繋がることができました。これは私の人生において何よりの財産です。

末筆ながら、県士会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。この度は本当にありがとうございました。



【写真】表彰式の様子

(左) 高見さん (右) 川野辺会長

～広報誌編集部からのお知らせ～

今年度より会員の皆様には電子版で広報誌を閲覧して頂いておりますが、来年度も紙媒体での閲覧を希望する方には、郵送料(年4回分合計560円+振込手数料)をご負担頂ければ、紙媒体での配布を行う予定としております。

つきましては、紙媒体での配布を希望する会員の方は、締め切り期日までに下記QRコードを読み取り、質問事項にお答え頂ければと思います。

※紙媒体(有料)配布希望受付期間：**2026年4月30日(木)**まで

※各施設に1部ずつ配布していた広報誌を来年度は廃止し、完全電子化の方向で検討しております。

<紙媒体配布希望QRコード>



<広報誌ダウンロード用QRコード>



病院の「ファン」を創るということ

—作業療法士の視点が、
病院の未来を拓くヒントになる—

社会福祉法人北杜 障がい者支援施設ほくと 若狭 利伸

審査員席で感じた「熱気」の正体

こんにちは。障がい者支援施設ほくとの若狭利伸です。先日、全国の医療機関が自院のファンづくりへの取り組みを競い合うイベント「病院ファンづくり甲子園」に、特別審査員として参加してきました。そこで目にしたのは、これまでの「病院」という概念を広げるような熱気と、創意工夫に満ちた取り組みの数々でした。

各病院の発表者が語っていたのは、単なる治療実績や最新設備の紹介ではありません。いかにして患者さんやご家族、そして地域住民の皆さんと一緒に「新しい価値」を作り上げ、歩んでいるか。その「共創」のプロセスが、一人ひとりの言葉で綴られていました。私の心に強く残ったのは、病院の経営やマーケティングとは、決して冷たい数字の積み上げではなく、目の前の一人を笑顔にする「ファンづくり」の積み重ねなのかもしれない、という温かな確信でした。

病院に求められる「二つのファンづくり」

「マーケティング」や「ファンづくり」と聞くと、私たちはつい「外側にいる患者さんや地域の方々」に目を向けがちです。しかし、今回のイベントを通じて改めて気づかされたのは、「一番近いファンは、そこで働く職員自身である」という視点の大切さでした。

自分の病院が大好きで、提供しているサービスに誇りを持っている職員が一人でも増えること。そんな「中のファン」の熱量が自然と外へと溢れ出し、患者さんや地域の方々の信頼へと繋がっていく。この心地よい循環こそが、選ばれる病院の土台になるのではないのでしょうか。外向けの宣伝だけでなく、まずは自分たちが「この病院のここが良いよね」と語り合える文化を育むことも、立派なマーケティングの一歩なのかなと思います。

OTとマーケティングの意外な親和性

では、私たちOTはこの「ファンづくり」にどう関わっていけるのでしょうか。実は、OTが大切にしている視点こそが、病院の魅力を高めるための素敵な武器になると私は感じています。

第一に、OTは「生活」を見るプロです。病気だけを見るのではなく、その人の「やりたいこと」や「大切にしている価値観」を深く掘り下げます。これはマーケティングで最も大切とされる「相手が本当に求めていること」を汲み取る力と、とてもよく似ています。

第二に、OTは最高の「ストーリーテラー」になれる存在です。患者さんが絶望の中からリハビリを通じて自分らしい生活を取り戻していく。その過程を一番近くで見守っているのは私たちです。この「回復の過程」を、温かみのある言葉で地域や社会、そして院内の仲間たちに伝えていくことは、病院の価値を届ける最高の発信になるのではないのでしょうか。私自身も現在、施設の広報誌を担当していますが、現場の小さな出来事を言葉にして届けることの大切さを日々実感しています。





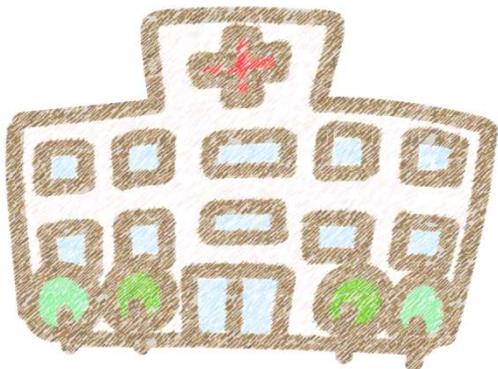
病院全体で取り組む「共創」の事例

今回のイベントで、心に響く事例がいくつもありました。例えば、病院全体で「減塩ソース（もりそ）」を共同開発した事例です。単に「塩分を控えてください」と指導して終わるのではなく、患者さんと共に「美味しく健康的な食事を楽しむ」という解決策を形にする。これこそが、患者さんと共に歩む「共創」の姿であり、生活の質にこだわるOTの視点とも重なる、素晴らしいファンづくりだと感じました。

また、SDGsに全力で取り組んでいる病院もありました。環境に配慮し、地域社会をより良くしようとする姿勢は、外からの信頼を得るだけでなく、働く職員にとっても「この病院で働けてよかった」という誇りに繋がっていくはずです。こうした「一歩先の社会貢献」に、専門職としてどう関われるかを考えることも、これから重要になるのではないのでしょうか。

私たちにできる具体的なアクション

今日から私たちが現場で取り組めることは、意外と身近なところにあるかもしれません。例えば、担当している患者さんの「喜びの瞬間」を言葉にして、院内で共有することから始めてみるのはいかがでしょうか。広報誌やSNSを通じて届ける笑顔は、外の方々を惹きつけるだけでなく、一緒に働く仲間たちの「力」にもなります。また、患者さんやご家族が「この病院に来てよかった」と言ってくれた理由を、ぜひそっと探ってみてください。そこには、病院が大切にすべき価値のヒントが隠されているはずです。



OTの力で病院を変えていく

マーケティングは、決して難しい専門用語の羅列ではありません。私たちが日々行っている「対象者に寄り添い、その人の人生を豊かにするために知恵を絞る」という行為の延長線上にあるものです。

今の時代、いかに「選ばれる価値」を創り出していくかが求められます。病院のファンを増やすことは、結果として私たちがリハビリを提供できる環境を守ることに繋がっていきます。

私たちOTが、リハビリの枠をちょっと越えて、病院の魅力を創り出す当事者として一歩踏み出してみる。その小さな挑戦の積み重ねが、患者さんに選ばれ、そして職員からも愛される病院を創る原動力になると信じています。OTの視点を、病院全体の「ファンづくり」に活かして、新しい一歩を踏み出してみませんか。





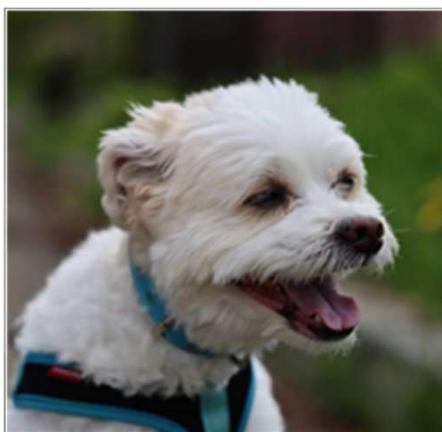
みんなと語るべ ~日々の楽しみ方~

語り手：介護老人保健施設 成寿苑



元来飽き性な気質なので冬限定にはなりますが、かぎ針による編み物を楽しんでいます。今まで帽子しか編めなかったのですが、今年は思い切ってブランケットに挑戦しています。花柄モチーフ大量生産で順調に進んでいるかと思いきや、先日とんでもない大ミスに気付いてしまい絶賛修正中です。先はまだまだ長いです。

中高6年間同じクラスだった友人と、都合を合わせて車で旅行をしています。道中では近況報告をしつつ、お互いおススメの舞台DVDを鑑賞しながらドライブしたり、道の駅を見つければご当地ソフトを味わったり。あとは予約した宿で溶けるほど温泉に浸かり、美味しい食事を頂き、好きな時間に寝るのが最高の贅沢です。



老犬となった愛犬との日々は、以前より穏やかで優しい時間に満ちています。歩幅を合わせてゆっくり歩く散歩や、日向ぼっこをしながら隣で眠る姿は、何物にも代えがたい愛おしい光景です。手がかかることも増えましたが、長年連れ添った深い絆を感じる毎日。シニア期ならではの愛くるしさを、大切に噛み締めています。

県士会への異動届をお忘れなく！！

今年度も残すところ僅かとなりました。4月から新天地で頑張ろうと決断した会員の皆様もいる事と思います。県士会では会員の把握のため異動の届け出をお願いしております。職場内でお声をかけあって頂き、届け出忘れが無いようよろしくお願い致します。

月
日
()
日

秋田県作業療法士会ホームページ

URL: <https://akita-ot.jpn.org/membersite/service.html>



秋田県リハビリテーション専門職協議会ホームページ

URL: <https://www.pos-akita.org/>



(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号



株式会社

千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22
TEL 018-823-3380
FAX 018-862-5126
<http://www.sensyugishi.co.jp>

編集後記

今年は去年に比べて寒い日が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

私の家の犬は雪が大好きで散歩のたびに雪にジャンプしていくので散歩後のドライヤー作業がとても大変です。

今年は、冬のオリンピックやWBCなど例年よりもスポーツが盛り上がる一年となりそうですね。自分も熱く応援しこの寒い日々を乗り越えていこうと思います。(yui)



第32回

秋田県作業療法学会

学会長：加藤淳一（秋田県立リハビリテーション・
精神医療センター）

地域リハビリテーションにおける 作業療法士の活躍の推進

日時 ▶ 2026年4月25日（土）
会場 ▶ 仙北ふれあい文化センター

特別講演

『地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割と期待
— 望む暮らしの実現を支える専門職の支援：新たな取組み—』
医療法人真正会 霞ヶ関南病院 地域リハビリテーション推進部
地域リハ・ケア サポートセンター 岡持利巨 先生

『地域リハビリテーションにおける秋田県の現状と課題（仮）』
雄物川クリニック 鈴木史子 先生

●一般演題 ●トピックス演題 ●定期総会

お問い合わせ

実行委員長：加納いずみ（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター）
TEL 018-892-3751 Email akitaotgakkai@gmail.com



一般社団法人

秋田県作業療法士会

発行：一般社団法人 秋田県作業療法士会

会長：川野辺 穰

編集：一般社団法人 秋田県作業療法士会 広報誌編集部

〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱16-2

大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則

TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483

e-mail : akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp

事務局：〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田25-2 セジュールエスト 105号

TEL/FAX 018-837-0552

e-mail : akita_ot@akita-ot.jpn.org

印刷：川嶋印刷株式会社

